

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3290100589		
法人名	特定非営利活動法人まごころサービス松江センター		
事業所名	グループホームまごころの家・いんべ ぼたん		
所在地	島根県松江市東忌部町900-2		
自己評価作成日	令和5年1月6日	評価結果市町村受理日	令和5年4月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [2/index.php?action\\_kouhyou\\_detail\\_022\\_kani=true&JigyosyoCd=32](https://2/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=32)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPOまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白潟本町43番地		
訪問調査日	令和5年2月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①コロナ禍でも感染予防に努めながら外出支援を行っている。2~3人の少人数で桜を見に行ったり、紅葉ドライブなど、人が密集する場所は避けて外出するようにしている。  
 ②面会の自粛をお願いしているなか、ご家族に写真や動画を送ったり、ライン電話を使用し顔を見ながら会話が出来るようにしたり、窓越しにて面会をしていただいたりと、少しでも顔を見て安心していただけるよう努めている。  
 ③お誕生日や敬老会など特別な日は、服装も華やかにしたり、お祝い膳・手作りケーキなどでお祝いをし、特別な日の演出をしている。  
 ④小さなお子様がいる職員や、急な体調不良などにも対応出来るよう働きやすい職場づくりに努めている。有休や希望休の申請も出来る限り通りよう努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「ぼたん」「ゆり」両ユニットのスタッフが利用者全員の趣味、嗜好、生活歴、行動パターン等を把握して一人ひとりの心身の変化に気づきやすく、より良い支援をする事につながっている。利用者の自由、主張、笑顔を遮らない様に日常やイベントで楽しめる事を考え出し、春の花見、ミニ運動会、夏の七夕、納涼会、秋のボーリング大会、冬の餅つき、クリスマス会を行いみんなで楽しんでいる。職員は毎朝理念を唱和して自分のものとし、支援の方向性を明確にして利用者に向き合い利用者の穏やかな表情、生活を支えている。食事は三食共に自然の素材で手作りしまごころを込めて提供している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝ミーティングの時に全員で理念を唱和し、常に意識しながら実践に取り組んでいる。	毎朝ミーティングで唱和して職員一人ひとりが理念を自分のものとし、利用者が「今日が一番良い日」だったと思える様な実践をすることに努めている。利用者の様子から常に原点に立ち返っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	以前は自治会定例会や地域のイベントに参加していたが、コロナ感染防止のため活動は取りやめている。	コロナ禍にありイベント等を通じた交流は出来ないが、土砂崩れや大雪の時には地域の人に声をかけて貰ったり雪かきをして貰うなど関係が継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度はコロナ感染予防のため自粛した。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度はコロナ感染予防のため報告書を行政、地域、社協、家族に提出している。	コロナ禍にあり書面形式で利用者状況や活動、ヒヤリハット、身体拘束等、諸々の取り組みや現状を報告している。対面での会議と違いあまり意見は出ない。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	今年度はコロナ感染予防のため自粛した。	運営推進会議が通常通りに開催出来ないので報告書を提出している。老人健診について関係機関に相談したが「厚生労働省のホームページで確認を」と言われ困った。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月、身体拘束委員会で柵やセンサー設置利用の見直しを行い家族に説明し理解を得ている。運営推進会議報告書にて現状の報告。	毎月会議で現状を話し合い検証している。利用者の行動を止めない言葉掛けや柵やセンサーの使用等、ケアを振り返り全員で意識して取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	馴れ合い状態での無理な言葉などの制止にならないよう職員間でお互いに注意し合っている。職員間で話し合いを行い状態把握と対応を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	毎年の自施設研修で学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約説明の際にはグループホームの趣旨をご理解頂くよう努めている。生活状況や発生されると思われる事柄、対応を事前に話し合い、納得して頂いてから契約を交わしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	今年度はコロナ感染予防のため家族に面会の自粛をお願いした。感染状況に合わせて面会の方法などを伝え家族の協力を得ている。電話やメールで日頃の様子を伝え意見や要望を聞き運営に反映させている。	従来通りの家族の訪問は出来ないが様子を伝えながら意見を聞くことに努め、ケアへの要望や居室への手すり設置等、意見は出来ることから改善につなげている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は日頃から細やかな声掛けを行い職員の思いを聞くように努めている。職員会議やミーティングでケアや業務改善などについて話し合い、働きやすい職場作りをしている。	管理者は職員には些細な事も報告して貰い何でも話せる職場の雰囲気作りを行っている。緊急性のあるものはグループラインで周知を図り、そうでないものは業務日報、連絡ノートで周知させ職員会議で検討している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	話を聞く機会を多く設けていることによりスタッフ個々の向上心に繋がるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	振り返りシートの活用や管理者を中心とした細やかな声掛け、疑問に思ったことやケアについてなどミーティングで話し合い解決に繋げている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ感染予防のため同法人のもつ他ホームとも交流を自粛している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の思いがなかなか伝えられないのが現状。行動を抑制せず傾聴し安心出来るよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族来所時や電話で情報をもらう。家族を労い何でも気軽に話してもらえるように関係性を作る努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者・主任とケアマネで個々の相談に応じ対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事や今までの習慣を尊重し食事作り(焼きそば等)に関わって頂けるようにして一緒に食べたり、食器拭きや洗濯たたみをして頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族へ利用者の様子を月一回ホーム通信と手紙という方法で報告している。電話をすることもある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の生活歴を把握し本人の思いを聞きながら家族とも相談している。毎月のホーム通信は友人や孫などにも配布している。	今迄の関係が途切れない様にホーム通信で利用者の様子を家族や友人にも伝えている。面会は感染状況に合わせてガラス越しで行ったり、動画やオンライン通信でも状況を伝えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者のその時の状態を把握し一緒に作業やアクティビティに参加している。個々の観察をしながらその人に合った支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	毎月の通信や手紙を発送することで気軽に相談や来訪してもらえる関係性を大切にしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話や表情から本人の思いや希望を汲み取るように努めている。全職員で情報を共有して利用者の望む暮らしに繋げている。	スキンシップ、笑顔で話しかけ、「疲れた」「トイレに行きたい」等、利用者の表情や仕草、姿勢等から思いを汲み取り、情報を共有して支援につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報提供書をもとに共有している。ホーム生活で新たな気づきもある。そこから出来る可能性を見つけ出し新たな支援に繋げている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日を穏やかに過ごして頂けるように常に寄り添い心身の安定に努めている。細かな身体情報は朝の申し送りやミーティング、連絡ノートで共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のミーティングの際、利用者様個々の状態等確認し支援方法を考えている。コロナの関係もあり家族様とは電話・文章などで連絡を取り合い今までの暮らしが継続できる支援となるよう介護計画を作成している。	利用者の心身の変化をケアカンファレンスや家族と電話で話し合い現状に即した介護計画を作成している。家族の要望に対し出来ることは支援している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子・食事・水分・排泄・入浴・服薬の記録をしている。連絡ノートを活用し情報の共有を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診を職員が対応している。ミーティングの機会に支援方法について話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	例年ならば公民館事業に参加するが今年度はコロナの関係で参加なし。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月一回主治医の往診がある。入所以前かかりつけ医も往診に協力あり。	今迄と同じかかりつけ医や協力医との関係を築き訪問診療の体制を整えている。状況に応じて専門医を受診している。受診内容は手紙や電話で家族に報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週水曜日の訪問看護にて一週間の様子を伝え指示をもらっている。必要ならば主治医、総合病院の受診に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合には先生や看護師に状態を聞き一か月以内の退院を目指している。退院時家族様先生ソーシャルワーカーと連携を取りホームでの対応について話し合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に合わせ家族や主治医・看護師と話し合いながらホームで出来る事を伝え家族の希望を尊重した支援に取り組んでいる。	医療行為を希望しない利用者家族の思いを汲み取り1名の看取りを行った。主治医を中心に関係者と連携し家族の意向を尊重した終末期の支援をする事が出来た。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時職員で判断が出来るように指導している。主治医・訪問看護・家族様・管理者に連絡し救急搬送が必要ならば救急車を呼び職員の応援を頼みそれぞれに対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の消防訓練、火災訓練を行い理解に努めている。地域の方にも災害時の協力を依頼している。	利用者参加で訓練をしている。消防署から避難経路、避難する時のドアの開閉の場所等の助言を受けた。備蓄品も簡易食糧や水の他に蛍光タスキ、メガホン、電池等を備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の尊厳を大切にし、親しみを感じられるような言葉かけや対応をしている。排泄時は小さな声での言葉かけや、入浴時同性介助をするなど配慮している。	利用者に合わせて声掛けをし人生の大先輩として敬った態度で支援する様に心掛けている。居室の入口に暖簾を吊るしたり同性介助、ホールでは名前をイニシャルで呼ぶ等配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望を引き出せるよう声掛け、関わりを持ちその思いを実現できるように支援している。食器拭きや洗濯たみなど進んで行えるよう確認準備をして自発行為を尊重している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「今日が一番いい日」ホーム理念を大切に実行している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	元美容師だった職員が散髪をしたり、化粧をして頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を使用し三食手作りしている。調理や片付けなど利用者様の力を活かし職員と一緒にしている。	旬の食材を使って手作りし、好物の寿司、おはぎ等を提供したりパンバイキング、中華バイキング等取り入れ目先を変えて食事が楽しめる様にしている。利用者も調理や片付け等一緒に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表に記入している。利用者様にあった水分量を設定し支援している。摂取しにくい利用者様にはゼリーやトロミ付きで提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立の方は見守りしながらケアしにくいところは支援している。出来にくい利用者様には介助している。全くできない利用者様には口腔ティッシュで清潔にし誤嚥にならないように注意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を参考に一人ひとりの力や排泄パターンに合わせて支援し、パットやオムツの検討をしている。	トイレ誘導する事によりオムツで入居した利用者のほとんどがトイレで排泄出来る様になっている。立位が保てなくなったり足の痛い利用者には無理をしない様に支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便パターンを把握している。主治医に相談し服薬、坐薬でコントロールの利用者もいる。食事、飲み物も工夫している。アクティビティ体操を行い全身運動を促し腸の活動を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週二回を目安に本人の希望に沿って支援している。体調不良で入浴出来ない利用者様は清拭、陰部洗浄し清潔保持を行っている。	利用者の希望に沿った支援を心掛け、入浴出来ない時は清拭等に対応している。入浴困難な利用者はリフト浴で支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の心身状態に合わせて適時休息をしている。安楽に休んでもらえるように居室の温度調整を行っている。夜間眠れない時は傾聴している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別に薬情報をファイルし職員が共有できるようにしている。利用者様の状態を観察し服薬方法など共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事活動を中心に個々の生活歴に合わせた支援をしている。クッキングやアクティビティを取り入れ楽しい一日になるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染予防のため景色を眺めにドライブをしたり、ホームの周りを散歩することで季節の花などを楽しんでいる。	周辺の散歩や、季節を肌で感じられる様に花見や紅葉ドライブに出掛けている。利用者は花の匂いを嗅いだり深呼吸したり、おしゃべりや飲み物やアイスクリームを買って食べ外出を楽しんでいる。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームで家族様よりお金を預かり管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持参している利用者様がいて電話をされている。家族様へ手紙を書かれる利用者様もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季折々の壁画を利用者様と一緒に作って飾ったり、利用者様の写真を廊下や居室に飾っている。	季節行事の絵を描いた壁画、風景写真や絵画、折り紙で作った傘や毬、タペストリー、利用者の写真等を飾り居心地良く過ごせる様にしている。思い思いに過ごせるようにその時々テーブル等の配置を工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールで仲の良い利用者様同士で話をしてお茶を飲んだり、自室でテレビを観られたりしている。状況に応じてテーブル等を動かし集団で過ごせる工夫をしたり、静かに過ごしたい方への個の環境作りを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様、家族様と話し合い、携帯電話やテレビ、ラジオを置いている。新聞の購読や好きな歌をCDで聴く人もいる。家族写真などを居室に飾り安心されるよう工夫している。	利用者、家族と話し合い写真やテレビ、ラジオ、趣味のもの等を持参して貰っている。織物や書き始め、お金で作った打ち出の小槌や人形等、利用者が慈しんで来たものと共に過ごせる様にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全個所に手すりを付け安全な歩行が出来るように工夫している。トイレや居室にはプレートをつけて分かりやすいようにしている。		